

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

- 1 事業名： 観光活性化に向けた地域資源ネットワーク構築事業
- 2 実施団体： 特定非営利活動法人勝山・町並み委員会
- 3 協働担当課： 地域政策部 地域づくり推進課

4 事業概要

(地域の課題やニーズ)

- ① 地域内ではものづくり体験や食文化・農林文化などの地域資源があるが、地域経済への訴求力を有する観光ツアーとして打ち出すことができていない。
- ② 近年では海外からの来訪者やものづくりワークショップ参加依頼も増えてきているが、窓口がないために大きな機会損失が生じている。
- ③ ものづくり体験をもとにした宿泊も含めた滞在型観光は真庭地域の地域づくりの主要産業となりうるが、各所連携とスタートアップが未だできていない。

(目的)

「観光活性化に向けた地域資源ネットワーク構築事業」では、これらの課題やニーズをふまえ勝山の強みである「ものづくり」をテーマに、教育や学習、体験なども含めた滞在型観光に取り組み、地域観光の活性化を目指した。

(事業項目)

- ・ 事業1／地域資源ネットワークを活用した地域プログラム開発・・・開発会議の実施、トライアルの実施
- ・ 事業2／地域資源プログラムの販路拡大・・・プログラム受入・窓口整備、プログラム概要の可視化(チラシ、ホームページ制作)、プログラムのPR及び営業、トライアル実施

5 実施内容

【概要】

「地域資源ネットワークを活用した地域プログラム開発」、「地域資源プログラムの販路拡大」と2大項目に分けて、事業を実施した。講師を招き、現地訪問や開発会議(対面・WEBスカイプ)を重ねた。当初のスケジュールでは、プログラム開発を前半夏秋期に行い、後半に販路拡大を行う予定だったが、プログラム開発及びホームページづくりが予定以上に難航し、開発と販路拡大をほぼ同時に実施した。

(事業1／地域資源ネットワークを活用した地域プログラム開発)

- ・ 調査・・・各方面の関連団体・個人へ調査ヒアリングを何度も実施した。コンテンツ(現在の状況確認及び商品プログラムとして提供できる資源探し)とニーズ(現在の状況確認及び掘り起こし)の合計4種の調査を行った。また、調査対象団体は、営業対象であることも多く、ミーティングを重ねることで、プログラム開発から販路拡大へとつながること

もあった。

- ・ トライアル・・・学生、一般（宿泊付）、インバウンドの3種を行い、アンケート及びヒアリング調査を実施した。

（事業2／地域資源プログラムの販路拡大）

- ・ プログラム受入・窓口整備・・・調査ヒアリングと同時に、受入窓口の整備を最初に行った。英語対応も可能とした。
- ・ プログラム概要の可視化・・・冊子とホームページの2種。冊子は瀬戸内芸術祭の夏会期に合わせて簡易英語版を作成した。
- ・ プログラムのPR及び営業アプローチ・・・調査と重ねることでPR営業へと発展した案件もあった。

【事業詳細／プログラム開発及び営業アプローチ】

<調査及びアプローチ方法>

- ・ 電話・メールでの問い合わせ
- ・ 訪問・見学
- ・ ミーティング（対面／WEBスカイプ）

<主な内容>

- ・ 現在の状況及び課題
- ・ 地域資源を活用したプログラムニーズ
- ・ 地域資源を活用したプログラムづくりの可能性及び掘り起こし
- ・ その他のオプション
- ・ アドバイス拝受
- ・ 実施についての詳細（予算や期間等）
- ・ WEBシステムの仕様等

<調査及びアプローチ実施団体>

- ・ 観光インバウンド・・・真庭観光局、岡山観光連盟、瀬戸内芸術祭、真庭市国際推進課、外国人ゲスト（数名）、市内外旅行会社
- ・ 教育学校・・・吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、市内小中高校（数か所）、海外大学（Whitireia New Zealand）
- ・ 企画運営まなび・・・大原本邸、山村エンタープライズ、ゆーまにわ（真庭市）、アーツ&クラフツビレッジ、IDEA R LAB（玉島）
- ・ 広報WEB・・・市内外WEBデザイナー（数か所）、WEB運営会社（ASOVIEW／PEATIX／ACTIVITY JAPAN）
- ・ 広報パンフ・・・市内WEBデザイナー（数か所）
- ・ 地域連携・・・真庭市勝山振興局、真庭市スポーツ文化振興課、真庭市生涯学習課、真庭市教育委員会、真庭市交流定住課、地域おこし協力隊
- ・ 作家・・・国内外・市内外ものづくり作家（十数名）
- ・ 支援助成及び文化芸術・・・福武教育文化振興財団、岡山県文化連盟、橋本財団、石川文化振興財団

【事業詳細／トライアル実施】

学生x2回(県立大学計3人／ガラス細工ものづくり)、一般(宿泊付計2人／竹細工)、インバウンド(台湾4名+通訳／染め)の3種を行い、アンケート及びヒアリングを行った。交通アクセスや価格、必要な事前情報、プログラム参加における段取りなどの情報収集ができた。また、2019年秋の日韓関係の悪化で韓国インバウンド体験トライアル(数名受入)が中止になり、2020年2月の新型コロナ発生で筑波大学生1名のトライアルが中止となった。

【事業詳細／地域資源プログラムの販路拡大のプランと課題】

<プラン>

ニーズ調査を行ったあと、作家と体験プログラム及びツアーを企画する。WEBデザイン及びプログラミングを進め、トライアルを行い、体験プログラムが完成したあとに、WEBを補修調整。補修調整完了後にサイトを公開し、プロモーションを図る事業プランだったが、調査ヒアリングを通して新たな課題が明らかになり、事業スケジュール一部軌道修正した。また、WEB制作の進め方は、東京の制作会社にデザイン及びプログラミングを依頼したため、週に1回1時間程度、講師とともにスカイプにてWEB会議を重ね、制作した。

<課題1:プログラムづくり>

- ・ 地域資源としてもものづくり体験商品はあるが、作家自身が体験を売って稼ぐことに消極的である。(例:体験販売をやめたいわけではないが、どちらかといえば体験ではなく、商品売りたい。体験よりも、商品売の方が稼ぎになる。体験料の値上げは考えたくない。既に体験プログラム販売は独自で行っているため窓口を広げたくない。)
→ 商品としてのものづくり体験の完成度が低下し、積極的な営業につながらない。(例:営業的には体験申込受入×切は、1日前や2日前など出来るだけ短く設定したいが、1週間前などにとどまってしまう。)
- ・ ものづくり体験担当者の人材不足
→ 各作家は注文商品なども制作している。大手施設のようにものづくり体験担当がいないので、突然に体験が入ると受注商品の制作に支障が生じる。

<課題2:WEB制作>

- ・ 良いWEBサイトを制作しても、サイトを訪れる人が勝手に増え、体験が売れるわけではない。
→WEBサイトを見る、注文する。この導線づくりが大切である。導線づくりにはプロモーション費や営業費、事務費又はボランティア協力などさまざまな工夫や資金が必要である。資金が十分でない場合は、自らが営業できるWEBサイトが好ましい。または、大手サイトと連携し、低コスト(又は無料)の導線づくりが必要である。

【事業経過／プラン修正と実施】

<経過(6月~1月)>

- ・ プログラムづくりについては、基本的にはこれまであった体験プログラムをベースにする。作家の負担にならないよう、相談を重ねながら、新たなプログラムを作ることが出来る場合

はその内容を展開していく。

- ・ ヒアリングを重ねることで、観光要素が高い体験プログラムだけでなく、レベルアップできるようなものづくり体験の需要があることが分かった。また、作家自身も定期教室のようなまなびと体験教室の開催を望んでいることが分かった。シリーズとしての体験プログラム制作を行った。
- ・ 夏に完成していたWEBデザインを一度白紙ベースに戻し、売れるサイトづくりについて検討を開始した。また、大手サイト連携の可能性を調査し、どのサイトが良いのか検討した。結果、WEBデザインについては新デザインをおこすことにした。

<WEB調査>

可能性のある大手サイトを調査した。メールや電話、対面打合せ等を重ね、内、可能性のある3社(アクティビティジャパン、アソビュー、ピーティックス)については登録し、試験運用した。

打合せや登録には1つずつ方法が異なるので、それぞれに時間がかかった。秋ごろにASOVIEWに決定し、試験運用したが、イベントやスポット的なプログラムが多いため自分たちのプログラムには合わないことが判明した。ASOVIEWについては事前確認や打合せを多く重ねたが、運用前では考えが至らない点などもあり、支障に気づくことができなかった。最終的に、

ASOVIEWは退会し、アクティビティジャパンとピーティックスを活用することにした。

(体験サイト調査 6社)

- ・アクティビティジャパン https://activityjapan.com/publish_info
- ・ASOVIEW <https://www.asoview.com/>
- ・ピーティックス <https://peatix.com/?lang=ja>
- ・セレクトタイプ <https://select-type.com/>
- ・エアリザーブ <https://airregi.jp/reserve/>
- ・Trip <https://trip-u.com/host>

<経過(1月~3月)>

- ・ より多くの人がかかわることで、そのサイトの魅力をアップし、またサイトを訪れる人を増やすべく、ヒアリングやアンケートを重ね、勝山中心のものづくりサイトを美作全域に広げた。湯原や津山からのプログラムも掲載し、同時に作家自らが情報発信(インスタグラムを活用した特別プログラム)できるようにした。
- ・ WEB調査やデザイン決定に時間を要したことから、WEBサイト完成後に営業プロモーションを行うことは難しく、また日韓関係の悪化や新型コロナのような想定外の事案でトライアル機会を失ったため、団体へのアプローチを増やしプロモーションを行った。

【講師/フレームデザイン株式会社北川卓氏】

<プロフィール>

1971年東京都生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業後、ヘルシンキ工科大学/オウル大学在学(フィンランド政府給費留学生として)し、1999年東京芸術大学大学院(美術研究科修士課程)卒業。東京芸術大学で非常勤講師やデンマーククラブスホルム KRABBESHOLM HØJSKOLEにて招聘講師を務めた後に、2006年フレームデザイン

株式会社設立(同代表取締役)。建築を中心にデザイン活動を国内外で展開するほか、現在は真庭市政策サポーター(2014~)、岡山県立大学(2016~18)や日本大学(2017~)にて非常勤講師などをつとめ、建築とまちづくりの分野で幅広く活動中。

<招聘スケジュール>

- ・第1回:2019年6月28日 (真庭市勝山)
- ・第2回:2019年7月1日 (真庭市勝山/吉備国際大学)
- ・第3回:2019年7月31日 (真庭市勝山/倉敷芸術科学大学/岡山観光連盟/大原本邸)
- ・第4回:2019年9月2日 (真庭市勝山/岡山観光連盟)
- ・第5回:2019年10月6日 (真庭市勝山)
- ・第6回:2019年10月7日 (真庭市勝山/福武教育文化財団/岡山県文化連盟)
- ・第7回:2019年10月29日(真庭市勝山)
- ・第8回:2019年11月15日(真庭市勝山ASOVIEW)

【活動写真】



インバウンド体験トライアル



作家グループヒアリング



体験簡易冊子(英語版)



まなべる山里WEBページ

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

地域資源を活用した観光資源であるものづくりプログラムについて深い調査を実施することができ、新しいWEBプラットフォーム「山里手暮～まなべる山里～」(<https://yamagura.jp/>)が完成した。プログラム全22が掲載され、随時追加修正も可能。プログラムは既存の勝山地内プログラムのほか、新シリーズプログラム(竹細工)や、湯原でのメニュー(ガラス細工や木工体験)、また津山での体験内容(陶器)も含まれる。体験プログラムに参加する作家たち自らが情報発信を行うPHOTOトピックスもあり、勝山から美作全域に拡大し、より多くの発信と交流の場が生まれ、魅力的な体験販売窓口をつくることができた。

地元の個人事業主であるものづくり作家や、地域産業などはこの発信力が乏しいという問題に対して、それらを群として取りまとめて、新しいプラットフォームを構築することで、地域の魅力を多層的に外部に発信し、個々人の制作活動を連鎖的に繋ぎ合わせていくことは、今後の勝山を中心とする地域のブランド力アップと、地域内経済の活性化に期待ができると考えている。その情報への到達経路をより強くするために、アクティビティージャパンとのタイアップを行い、地域からの発信と、地域外のマスメディアと言える不特定多数への情報掲出が実現することとなる。この情報の多方向発信が実現できたことは、本事業の大きな成果と言える。

(2) 今後の課題

実際に本プラットフォームをウェブ上で構築する事業を通して、地域内の本プログラムの主人公とも言える、各ものづくり作家のものづくり体験を売り出していくことへの意識や必要性の感じ方などの温度差も明らかになったが、それはまだ実態がつかめていないことからくる部分も多々あると考えているので、今後の展開を期待したい。

今後は本プラットフォームの開設を機に、地域内のものづくり作家や産業従事者そして、地域文化活動の方々との意見交換を密に行いながら、新しい魅力あるプログラムの構築がこのプラットフォームウェブサイトを有効に活用する最良の手段であると感じている。

7 県民局と協働した効果及び課題

県民局の審査委員の方々からのコメントならびに、個別の相談に乗っていただいた、岡山観光連盟の山本さまには、貴重な視点を多数いただくことができた。特に集客という視点において、専門的なコメントをいただき、その成果として、アクティビティージャパンへのチャンネル拡大につながることは大きな成果である。

一方で、私たちが目指している情報発信の情報源は県北全域に地域を広げる必要性を強く感じている。よって、今後は具体的に本プラットフォームウェブを用いて具体的な活動と営業活動行っていく、より魅力的なコンテンツの開発に努めることが、この組織とシステムを継続するための鍵となると考えているので、引き続き、個別に情報共有とご指導を受けた賜ることができればと考えている。